



# 連結業績の概要 2018年度第3四半期



2019年2月1日

武田薬品工業株式会社

コスタ・サルウコス

チーフ フィナンシャル オフィサー

Better Health, Brighter Future

# 重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づき登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

特定されていない限り、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明（シナジの予測の声明を含みます。）も、いかなる期間における業績予測又その見積もりを意図するものではなく、本プレゼンテーションにおけるいかなる声明も、現在又は将来の会計年度における武田薬品の収益又は1株当たりの利益が過去に公表された武田薬品の1株当たりの利益と必ずしも合致し、又はそれを超えることを意味すると解釈されてはなりません。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使用されていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあります。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあります。

## 将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。この書類における将来見通し情報は、現在当社が入手可能な情報に鑑みて行った当社の現在の前提及び理念に基づくものです。かかる将来見通し情報は、当社又は当社の役員による、将来の業績に関する保証を表するものではなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI（買収後の統合プロセス）が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社の業績、経営結果又は財務状況に影響を与え得る事項の詳細に関しては、米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる登録届出書の“第3項重要事項 - D. リスクファクター”をご参照ください (<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/> 又は [www.sec.gov](http://www.sec.gov)において閲覧可能です。)。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいということを何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあります。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の業績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見積もりではありません。

# 重要な注意事項

当社は、Shire社買収影響を含めた合理的な業績予想を策定次第、これを公表する予定ですが、企業結合会計にかかる同社の資産価値金額およびその配分額の算出、償却方法・期間等の会計処理の検討にはまだ時間を要します。また、買収完了日から当連結会計年度末までの同社の損益影響や年間の買収関連費用を、現時点で合理的に見積もることも困難です。当社は、本買収が業績にもたらす影響の大きさに鑑み、暫定的、部分的な連結業績予想の提供は現時点で行わず、全体として、合理的な業績予想を策定次第、Shire社統合後の通期の連結業績予想を公表する方針です。

## IFRSに準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、**IFRS（国際会計基準）**に準拠しない財務指標である、実質的な売上収益、Core Earnings、実質的なCore Earnings、Core当期利益、実質的なCore当期利益、実質的なCore EPS、純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、営業フリー・キャッシュ・フローが含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、IFRSに基づく場合には含まれることとなる一定の利益及びコスト並びにキャッシュ・フローを除外しており、またはIFRSにおいて最も良く対応した財務指標とは異なる計算方法で算出されています。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標（「財務ベース」の用語で使われることがあります）に代替するものではありません。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

本プレゼンテーションにおけるIFRSに準拠しない財務指標と、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標の照合は、次のページに記載しています。

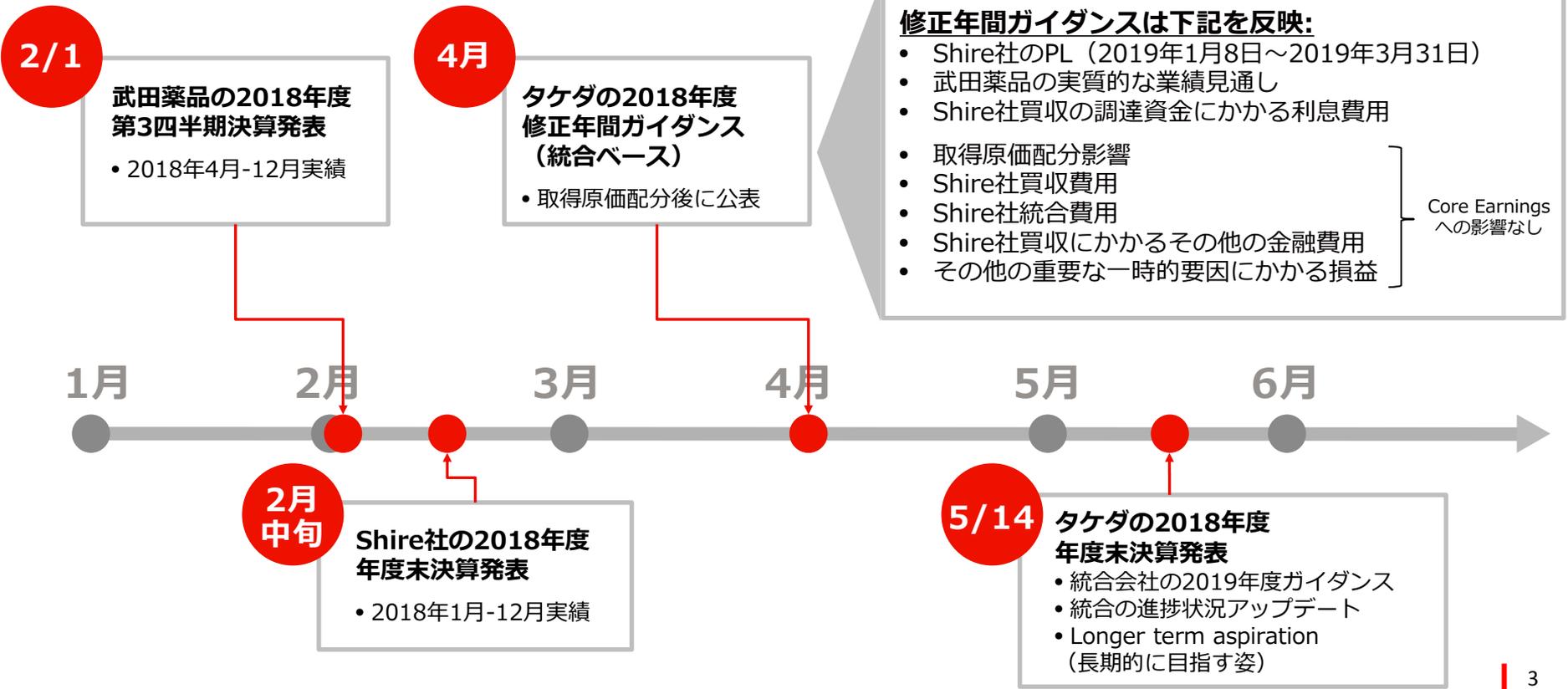
- ・ 実質的な売上収益から売上収益への照合（ページ29）
- ・ Core Earnings、実質的なCore Earningsから営業利益への照合（ページ30）
- ・ Core当期利益、実質的なCore当期利益、実質的なCore EPSから当期利益、EPSへの照合（ページ31）
- ・ EBITDA、調整後EBITDAから当期利益への照合（ページ25）
- ・ 営業フリー・キャッシュ・フローから営業活動によるキャッシュ・フロー、当期利益への照合（ページ13）
- ・ 純有利子負債から有利子負債（流動・非流動の社債及び借入金の合計）への照合（ページ34）

当社のIFRSに準拠しない財務指標のさらなる詳細については当社のホームページをご参照ください。<https://www.takeda.com/jp/investors/reports/quarterly-announcements/quarterly-announcements-2018/>

## 医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

# Shire社買収影響を含む2018年度年間ガイダンスは4月公表



# 戦略的フォーカスと優れた実行力がもたらした力強い 第3四半期累計実績

- 戦略的優先事項の着実な進捗



- 実質ベースはビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理により力強く成長

売上収益 +4.8%、Core Earnings +32.3%、Core EPS +34.2%

Core Earningsの対売上収益比率は+530bps向上

- 財務ベースは事業等の売却とShire社買収関連費用が影響

売上収益 +0.8%、営業利益  $\Delta$ 11.7%、EPS  $\Delta$ 32.0%

2017年度の和光純薬およびテバ社との合併会社にかかる一時的収益ならびに  
2018年度のShire社買収関連費用を除いた営業利益 +55.5%

## 第3四半期も戦略的優先事項を着実に推進

### Grow Portfolio

- 医療用医薬品の実質的な売上収益はすべての地域で増収+4.8%
- 成長ドライバーは力強いモメンタムを維持+10.5%
- 主力製品の力強い実績  
(例：ENTYVIO+35.1%、NINLARO+36.6%、TRINTELLIX+19.5%)

### Strengthen Pipeline

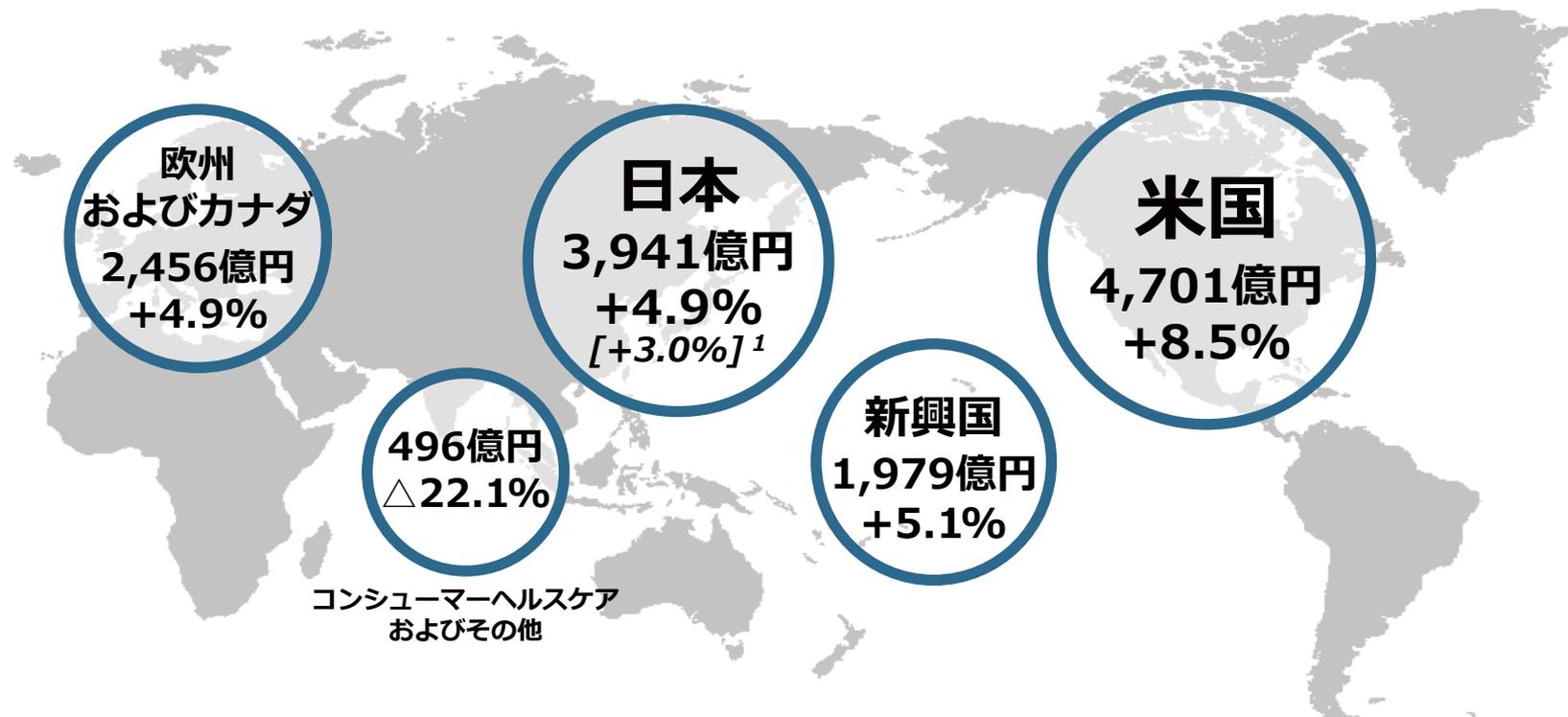
- デング熱ワクチンTAK-003のグローバル臨床第3相試験における主要評価項目の達成
- NINLAROの自家造血幹細胞移植後の多発性骨髄腫維持療法のFDA申請を取り下げ、生存期間に関するより多くのデータが得られた時点で再申請の予定
- ALUNBRIGのクリゾチニブ治療歴を有するALK陽性非小細胞肺がんの欧州承認
- ADCETRISの未治療のIV期CD30陽性ホジキンリンパ腫に対する欧州医薬品評価委員会 (CHMP) からの承認推奨の見解
- がん免疫療法のポートフォリオに関する複数の提携の拡大

### Boost Profitability

- 実質的なCEは+32.3%、ビジネスモメンタムとグローバル経費削減イニシアチブが牽引
- 実質的なCEの対売上収益比率は+530bps、うち70%は営業経費比率の改善が貢献
- 実質的なCore EPSは+34.2%

# 医療用医薬品の実質的な売上収益はすべての地域で増収

2018年度第3四半期累計 実質的な売上収益: 1兆3,575億円 +4.8%



<sup>1</sup> 日本における製品のライセンスアウトにかかる一時金収益を除いた場合: +3.0%

# 成長ドライバーは力強いモメンタムを維持

2018年度第3四半期累計 実質的な売上収益の成長

成長ドライバー	消化器系疾患	+18.6%
	オンコロジー	+7.0%
	ニューロサイエンス	+15.2%
	新興国事業	+5.1%
	合計	+ 10.5%

タケダ連結売上の成長ドライバー比率63%

# 主力製品の力強い売上実績

## 実質的な売上収益（第3四半期累計）

		主な適応症	億円	対前年同期
消化器系疾患		潰瘍性大腸炎、クローン病	1,944	+35.1%
		酸関連疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎他)	444	+18.5%
オンコロジー		再発・難治性の多発性骨髄腫	448	+36.6%
		ホジキンリンパ腫（フロントライン適応）（日本） 再発・難治性のホジキンリンパ腫 再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫 再発性のCD30陽性皮膚T細胞リンパ腫	335	+17.7%
		他のいずれのチロシンキナーゼ阻害薬が適応とならない慢性骨髄性白血病またはフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	205	+26.0%
		クリゾチニブ治療歴を有するALK陽性非小細胞肺癌	36	+151.4% (2017年5月上市)
ニューロサイエンス		大うつ病	422	+19.5%

# 2018年度の重要な研究開発マイルストーン

疾患領域	開発品	予定されるイベント			
オンコロジー (がん)	ADCETRIS	ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 欧州承認 (H2)		計画通り進捗中、2018年12月に欧州医薬品評価委員会 (CHMP)より推奨の見解を得た	
		ホジキンリンパ腫 (フロントライン適応) 日本承認 (H2)	✓		
	ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌 (フロントライン適応) 中間解析 (H1)	✓		
		ALK陽性非小細胞肺癌 (セカンドライン適応) 欧州承認 (H2)	✓		
	Cabozantinib	肝細胞がん 日本ピボタル試験開始 (H2)	✓		
	ICLUSIG	フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病グローバルピボタル試験開始 (H1)	✓		
	NINLARO	初発の多発性骨髄腫 初回の中間解析 (H1)	✓		2019年度の2回目の中間解析まで試験を継続
		自家造血幹細胞移植後の多発性骨髄腫の維持療法 初回の中間解析 (H1)	✓		脚注を参照
Pevonedistat	高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/低プラスト急性骨髄性白血病 Ph-2最終解析 (H2)		2019年度に最終解析を延期、現在実施中のPh-2試験に基づき申請の可能性があり		
TAK-788	非小細胞肺癌 申請が可能なPh-2試験の患者への投与開始 (H2)				
消化器系疾患	ENTYVIO	クローン病 日本申請 (H1)	✓		
		潰瘍性大腸炎 日本承認 (H1)	✓		
		潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤申請 (H2)		計画通り進捗中、主要評価項目と副次評価項目を達成、米欧申請を計画	
	TAK-954	経腸栄養不耐性 Ph-2b試験開始 (H1) 術後消化器機能障害 Ph-2b試験開始 (H2)	X	患者さんを管理する場面において、治験患者の募集が困難であったため開発を中止 術後イレウスから術後消化管機能障害に開発対象疾患を拡大	
	TAK-906	胃不全麻痺のPh-2b試験開始 (H2)	✓		
TAK-721 (SHP621)	好酸球性食道炎Ph-3導入療法301試験のトップラインデータ判明 (H2)				
ニューロサイエンス (神経精神疾患)	TRINTELLIX	大うつ病 日本申請 (H2)	✓		
		治療に起因する性機能障害 (TESD) の米国添付文書のアップデート (H2)	✓		
TAK-925	ナルコレプシー患者におけるブルーフォブコンセプト (H2)				
ワクチン	TAK-003	デングウイルスワクチン Ph-3主要解析 (H2)	✓		
	TAK-214	ノロウイルスワクチン Ph-2b最終解析(成人) (H1)	✓		

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。BLA: 生物製剤認可申請; MAA: 販売許可申請。略語については略語用語集をご参照ください。  
 ニンラロに関する脚注: 自家造血幹細胞移植後の多発性骨髄腫維持療法を対象とした試験で、2018年7月の初回中間解析にて無増悪生存に関する主要評価項目を達成しました。同年11月、当社は本中間解析データを米国食品医薬品局 (FDA) に提出しましたが、当局とのさらなる協議を経て、一旦申請を取り下げ、生存期間に関するより多くのデータが得られた時点で再度申請することを決定しました。今後の解析タイミングを検討のうえ、FDAと緊密に連携しながら再申請の計画を策定します。

# 実質ベースの力強い第3四半期累計実績、財務ベースのEPS成長は2017年度の一時的収益と2018年度のShire社買収関連費用が影響

- **財務ベースのEPSは△32.0%、事業等の売却とShire社買収関連費用が影響**
  - 売上収益+0.8%、成長ドライバーが為替影響(△1.1pp)と事業等の売却影響(△3.0pp)を相殺
  - 営業利益△11.7%、主に2017年度の2つの大きな一時的収益\*と2018年度のShire社買収関連費用が影響、これらの要因を除くと営業利益は+55.5%
    - \*和光純薬の株式売却益1,063億円とテバ社との合併会社に追加売却した製品にかかる収益169億円
- **実質ベースのCore EPSは+34.2%、ビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理により成長**
  - 実質的な売上収益+4.8%、成長ドライバー +10.5%が牽引
  - 実質的なCE+32.3%、対売上収益比率は +530bps、うち70%は営業経費比率の改善が貢献
- **営業フリー・キャッシュ・フローは△20.2%、テバ合併会社からのキャッシュ影響（2017年度）**
  - ノン・コア資産の売却により、さらに729億円のキャッシュを第3四半期累計で創出

2018年度第3四半期累計 対前年同期

財務ベース		2018年度第3四半期累計 Shire社買収関連費用除き	2017年度 和光純薬株式売却益と テバTV製品追加売却 2018年度第3四半期累計 Shire社買収関連費用除き	実質ベース	
売上収益	+0.8%	+0.8%	+2.2%	売上収益	+4.8%
営業利益	△11.7%	△4.0%	+55.5%	Core Earnings	+32.3%
EPS	△32.0%	△16.1%	+30.4%	Core EPS	+34.2%

# 財務ベース第3四半期累計PL増減は、2017年度の一時的収益と2018年度のShire社買収関連費用が影響



## 2018年度第3四半期累計 損益計算書（財務ベース）

(億円)	2017年度 第3四半期累計	2018年度 第3四半期累計 Shire社買収 関連費用込み	対前年同期	Shire社買収 関連費用*	2018年度 第3四半期累計 Shire社買収 関連費用除き	対前年同期
売上収益	13,696	13,800	+0.8%	-	13,800	+0.8%
Core Earnings	2,927	3,446	+17.7%	-	3,446	+17.7%
営業利益	3,223	2,844	△11.7%	△251	3,095	△4.0%
当期利益	2,409	1,644	△31.7%	△383	2,027	△15.8%
EPS	309円	210円	△32.0%	△49円	259円	△16.1%
円/ドル	112円	111円	△0.7%		111円	△0.7%
円/ユーロ	128円	130円	+1.4%		130円	+1.4%

\* 税引前当期利益影響486億円：買収費用（一般管理費）110億円、統合費用（その他の営業費用）141億円、金融費用235億円

# 実質ベース第3四半期累計PL増減は、ビジネスモメンタムとグローバル経費削減イニシアチブの実行を反映



## 2018年度第3四半期累計 損益計算書（実質ベース）

(億円)	2017年度 第3四半期累計	2018年度 第3四半期累計	対前年同期
売上収益	12,950	13,575	+4.8%
売上総利益	9,258	9,919	+7.1%
対売上収益比率	71.5%	73.1%	+1.6pp
営業経費	△6,660	△6,481	△2.7%
対売上収益比率	△51.4%	△47.7%	+3.7pp
Core Earnings	2,598	3,438	+32.3%
対売上収益比率	20.1%	25.3%	+5.3pp
Core 当期利益	1,989	2,669	+34.2%
Core EPS	255円	342円	+34.2%

# 営業フリー・キャッシュ・フローは△20.2%、2017年度の テバ合併会社からの長期収載品追加売却にかかるキャッシュ影響を受ける

## 2018年度第3四半期累計 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	2017年度 第3四半期累計	2018年度 第3四半期累計	対前年同期	
当期利益	2,407	1,644	△763	△31.7%
減価償却費、償却費及び減損損失	1,278	1,243	△35	
運転資本増減（△は増加）	△ 697	△ 935	△238	
法人税等の支払額	△ 117	△ 256	△138	
その他*	△ 512	414	+926	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,359	2,110	△249	△10.5%
有形固定資産の取得と売却**	△ 459	△ 504	△45	
無形資産の取得***	△ 379	△ 392	△13	
営業フリー・キャッシュ・フロー	1,521	1,214	△307	△20.2%

- ・不動産と投資有価証券の売却により、さらに454億円のキャッシュを創出
- ・ノン・コア事業であるテックプール社とマルチラブ社の売却により、さらに275億円のキャッシュを創出

次の項目は上記のキャッシュ・フロー計算書から控除しています。

\* (2017年度第3四半期累計) エスクロー口座からユニファーム社への支払いに伴い発生した収入162億円 (投資活動CFの同額の支出も控除)

\*\* (2017年度第3四半期累計) 不動産の売却収入369億円 (主に東京・品川の建物)

(2018年度第3四半期累計) 不動産の売却収入61億円 (主に大阪・十三の工場の一部土地・建物)

\*\*\* (2017年度第3四半期累計) 将来ロイヤリティ支払いにかかる権利を買い戻した支払い166億円

## グローバル経費削減イニシアチブを業務に完全に組み入れ、 確かな成果を創出

- 実質的な営業経費は対前年同期2.7%減少、2018年度のターゲットに対して前倒しで進捗
- 実質的なCore Earningsの対売上収益比率向上のうち、営業経費減少による貢献は70%（530bpsのうち370bps）
- コストパッケージの経費はZBB(Zero Based Budgeting)で策定した予算ターゲットに対して3.7%削減
- 営業経費のターゲットをすべてのマネジメントのKPIとインセンティブに組み入れ

# 戦略的フォーカスと優れた実行力がもたらした力強い 第3四半期累計実績

- 戦略的優先事項の着実な進捗



- 実質ベースはビジネスモメンタムと規律ある営業経費管理により力強く成長

売上収益 +4.8%、Core Earnings +32.3%、Core EPS +34.2%

Core Earningsの対売上収益比率は+530bps向上

- 財務ベースは事業等の売却とShire社買収関連費用が影響

売上収益 +0.8%、営業利益  $\Delta$ 11.7%、EPS  $\Delta$ 32.0%

2017年度の和光純薬およびテバ社との合併会社にかかる一時的収益ならびに  
2018年度のShire社買収関連費用を除いた営業利益 +55.5%

# Shire社の買収を完了、統合に向けて予定通り進捗

## • 2019年1月8日に買収完了

- 株主、規制当局の承認を得て、買収提案公表から8ヶ月で買収完了
- 米国預託証券（ADS）をニューヨーク証券取引所に上場：2018年12月24日
- 資金調達を完了、厳しい市況の中でも魅力的な調達金利を実現

## • 投資適格信用格付を維持

- 格付機関の投資適格信用格付のアップデート（JCR "A+"; S&P "BBB+"; Moody's "Baa2"; R&I "A"）
- レバレッジ低下の加速とポートフォリオのフォーカスに向けたノン・コア資産売却の交渉が進行中
- 不動産と投資有価証券の売却を通じたバランスシートからのキャッシュ創出

## • 統合に向けて予定通り進捗

- 武田薬品とShire社のノウハウの活用を実現する新しいオペレーティングモデル
- 新しいタケダ・エグゼクティブチームとトップ200のリーダーによる第1回リーダーシップミーティングを開催：2019年1月10日

# 強固な財務力を有し、経営の基本精神に基づき患者さんを中心に考える、 グローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニー

- **資本配分に関する優先順位を支える潤沢なキャッシュフローの創出**
  - 自社研究開発および新製品上市に対する投資
  - 確立された配当方針（1株当たり年間配当金180円）
  - 投資適格信用格付の維持
  - 規律ある領域を絞った提携と買収
- **利益率の向上に引き続きフォーカス**
  - 中期的に業界トップクラスの利益率を実現、コストシナジーと規律ある営業経費管理の改善を実現
- **中期的にレバレッジ（純有利子負債/調整後EBITDA倍率2倍）を速やかに低下**
  - 資産売却によりレバレッジ低下をさらに加速させる可能性

A solid red vertical bar on the left side of the page.

# Appendix

# 重点疾患領域において革新性の高いパイプラインを開発



	PHASE 1	PHASE 2	PHASE3/申請	承認*
<b>オンコロジー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-981 SUMO inhibitor Multiple cancers</li> <li>TAK-164 ImmunoGen GDC/GN ADC-GI cancer</li> <li>TAK-573 Teva Anti-CD38-antibody R/R MM</li> <li>TAK-079 Anti-CD38 mAb R/R MM, SLE</li> <li>TAK-788 EGFR/HER2 inhibitor NSCLC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-228 (sapanisertib) mTORC 1/2 inhibitor Endometrial cancer</li> <li>TAK-931 CDC7 inhibitor mCRC, ESCC, sqNSCLC</li> <li>TAK-659 SW/FLI-3 inhibitor Hematologic malignancies, DLBCL</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-385 (relugolix) Myovant GnRH antagonist Prostate Cancer (IP)</li> <li>TAK-924 (pevonedistat) M&amp;E inhibitor HR-MDS/CMML/LB AML</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NINLARO® Proteasome inhibitor</li> <li>ALUNBRIG® ALK inhibitor</li> <li>ENTYVIO® o4p7 mAb</li> <li>GATTEX® GLP-2R agonist</li> <li>ADCESTRIS® Seattle Genetics CD30 ADC</li> <li>Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor v</li> <li>Vonoprazan PCAB</li> <li>RESOLOR®/MOTEGRITY® Janssen 5-HT4R agonist</li> <li>ICLUSIG® BCR-ABL inhibitor</li> <li>Niraparib Tesaro PARP 1/2 inhibitor</li> <li>ALOFISEL mesenchymal stem cells</li> </ul>
<b>消化器系疾患</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-671 Samsung Bioepis Protease inhibitor Acute Pancreatitis</li> <li>TAK-018 Enterome FimH antagonist Crohn's Disease</li> <li>Kuma062 Pvp Biologics Celiac Disease</li> <li>TIMP-Gliadin Cour Imm Tol Induction Celiac Disease</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-906 D2/03R antagonist Gastroparesis</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-721 (SHP621) UCSJ/Foris Oral anti-inflammatory EOE</li> </ul>	
<b>ニューロサイエンス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-653 AMPAR potentiator TRD</li> <li>MEDI-1341 AstraZeneca Alpha syn mAb Parkinson's Disease</li> <li>WVE-120101 Wave Life Sciences mHTT SHP1 ASO Huntington's Disease</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-418 LSD1 inhibitor Kabuki Syndrome</li> <li>TAK-925 Orexin 2R agonist Narcolepsy</li> <li>WVE-120102 Wave Life Sciences mHTT SHP2 ASO Huntington's Disease</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-041 GPR139 agonist OAS NS</li> <li>TAK-680 (SHP680) Prodrug of dexamphetamine Neurologic Conditions</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TRINTELLIX™ Lundbeck Multimodal anti-depressant</li> <li>BUCCLAM Lundbeck GABA Allosteric Modulator</li> <li>MYDAVIS Mixed Amphetamine salts XR</li> <li>VYVANSE Shionogi Amphetamine-based psychostimulant</li> </ul>
<b>希少疾患</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-611 (SHP611) ERT MLD</li> <li>TAK-754 (SHP654) Asklepios Biopharm. Gene therapy HemA</li> <li>TAK-531 (SHP631) ArmaGen IS3 replacement Hunter CNS</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-607 (SHP607) IGF-1/IGFBP3 Chronic Lung Disease</li> <li>TAK-609 (SHP609) I25 replacement Hunter CNS (IT)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-755 (SHP655) KM Biologics ERT/ADAMTS-13 cTTP</li> <li>TAK-620 (SHP620) GlaxoSmithKline UL57 kinase inh CMV infect. in transplant</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OBIZUR Ipsen FVIII replacement</li> <li>VONVENDI vWF replacement</li> <li>NATPARA PTH replacement</li> <li>ADYNOVATE FVIII replacement</li> <li>TAKHZYRO Anti-kallikrein mAb</li> </ul>
<b>血漿分画製剤</b>				<ul style="list-style-type: none"> <li>HYQVIA Halozyme IgG + rh-hyaluronidase</li> <li>CINRYZE C1-mh</li> </ul>
<b>ワクチン</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-021 EV71 Vaccine</li> <li>TAK-426 BARDA Zika Vaccine</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-195 Gates Foundation Inactivated Polio Vaccine</li> <li>TAK-214 Norovirus Vaccine</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-003 Dengue Vaccine</li> </ul>	
<b>眼科領域</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-639 (SHP639) Glaucoma</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-759 (SHP659) Parion DED</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAK-640 (SHP640) Anti-infl/anti-septic Infectious conjunctivitis</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>XIIDRA LFA-1/CAM-1 antagonist</li> </ul>

ODF オーフアンドラッグ (希少疾病医薬品) 指定 (いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの)  
 ▲ ステージアップ/追加 2018年度Q2以降  
 ▼ ステージアップ/追加 2018年4月1日以降  
 ▼ パートナーシップによる開発課題  
 ▲ 申請が可能な臨床試験  
 Phase 1~3に開示されているアセットは、明確に新規候補物質とされているもの

2019年2月1日現在のパイプライン。略語については略語用語集をご参照ください。

# ライフサイクルマネジメントによりプログラムの価値を最大化



	PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3	申請	
<b>オンコロジー</b>	<b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (CN) <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor ND MM (CN) <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor Mnt ND MM post-SCT (CN)	<b>ADCETRIS*</b> Seattle Genetics CD30 ADC R/R sALCL (CN) <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 2L ALK+NSCLC (JP, CN) <b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L HCC (JP) <b>ENTYVIO*</b> α4β7 mAb GvHD Prophylaxis	<b>ADCETRIS*</b> Seattle Genetics CD30 ADC R/R HL (CN) <b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L RCC (JP) <b>Ninaparib</b> Tesaro PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – maint. (JP) <b>Ninaparib</b> Tesaro PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer – salvage (JP) <b>Vonoprazan</b> PCAB GERD PPI partial resp (EU)	<b>ADCETRIS*</b> Seattle Genetics 1L PTCL (EU, JP) <b>ALUNBRIG*</b> ALK inhibitor 1L ALK+NSCLC (EU, US) <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor R/R Amyloidosis (GL) <b>NINLARO*</b> Proteasome inhibitor ND MM (GL) <b>ALOPSEL*</b> mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD (US) <b>ENTYVIO*</b> α4β7 mAb SubQ UC, SubQ CD (US, EU, JP) <b>GATTEX</b> GLP-2R agonist Adult-SBS (JP)	<b>ADCETRIS*</b> Seattle Genetics CD30 ADC FL HL (EU) <b>Cabozantinib</b> Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 1L RCC (JP) <b>ENTYVIO*</b> α4β7 mAb Crohn's Disease (JP) <b>GATTEX</b> GLP-2R agonist Pediatric-SBS (US)
<b>消化器系疾患</b>			<b>ENTYVIO*</b> α4β7 mAb Crohn's Disease (CN) <b>ENTYVIO*</b> α4β7 mAb SubQ CD (US, EU, JP) <b>GATTEX</b> GLP-2R agonist Pediatric-SBS (JP)	<b>ENTYVIO*</b> α4β7 mAb Crohn's Disease (JP) <b>GATTEX</b> GLP-2R agonist Pediatric-SBS (US)	
<b>ニューロサイエンス</b>			<b>BUCCOLAM</b> GABA Allosteric Modulator Seizures (JP) <b>MYDAYIS</b> Mixed Amphetamine salts XR ADHD pediatric (US)	<b>TRINTELLIX™</b> Lundbeck Multimodal anti-depressant MDD (JP) <b>VYVANSE</b> Shionogi Amphetamine-based psychostimulant ADHD (JP)	
<b>希少疾患</b>			<b>OBIZUR</b> Jansen FVIII replacement CHAWI Surgery <b>ADYNOVATE</b> Pediatric Hema (EU) <b>VONVENDI</b> vWF replacement vWD Prophylaxis <b>VONVENDI</b> vWF replacement vWD Pediatric	<b>TAKHZYRO</b> Anit-kallikrein mAb HAE prophylaxis (CN)	
<b>血漿分画製剤</b>		オフアンドラッグ（希少疾病医薬品）指定 （いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの） ▶ ステージアップ/追加 2018年度Q2以降 ▷ ステージアップ/追加 2018年4月1日以降 ▽ 申請が可能	<b>CINRYZE</b> C1-inh SC HAE prophylaxis <b>HYOVIA</b> Haloxyme IgG + rh-hyaluronidase Pediatric PID <b>CINRYZE</b> C1-inh HAE prophylaxis (JP) <b>HYOVIA</b> Haloxyme IgG + rh-hyaluronidase CIDP	<b>CINRYZE</b> C1-inh AMR	

2019年2月1日現在のパイプライン。 地域の略語: GL = グローバル(米国、欧州、日本、中国)  
略語については略語用語集をご参照ください。

# 経験豊富で多様性に富み、優れた実績のある タケダ・エグゼクティブチーム



**クリストフ・  
ウェバー**  
代表取締役社長 CEO



**コスタ・  
サルウコス**  
チーフ フィナンシャル  
オフィサー



**平手 晴彦**  
コーポレート  
コミュニケーションズ&  
パブリックアフェアーズ  
オフィサー



**中川 仁敬**  
グローバルジェネラル  
カウンセル



**パドマ・  
ティルヴェンガダム**  
チーフ HR オフィサー



**古田 未来乃**  
コーポレートストラテジー  
オフィサー &  
チーフ オブ スタッフ



**ムワナ・ルゴゴ**  
チーフ エシックス&  
コンプライアンス  
オフィサー



**ラモナ・セケイラ**  
US ビジネス ユニット  
プレジデント



**岩崎 真人**  
ジャパンファーマ  
ビジネスユニット  
プレジデント



**ジャイルズ  
プラットフォード**  
EUCAN ビジネスユニット  
プレジデント



**リカルド・  
マレック**  
グロース&エマーシング  
マーケッツビジネスユニット  
プレジデント



**クリストフ・  
ビアンキ**  
グローバルオンコロジ  
ビジネスユニット  
プレジデント



**ラジーヴ・  
ヴェンカヤ**  
グローバル ワクチン  
ビジネスユニット  
プレジデント



**ジュリー・キム**  
プラスマドライブ  
セラピーズ ビジネスユニット  
プレジデント



**アンディー・  
ブランプ**  
リサーチ&デベロップメント  
プレジデント



**トーマス・  
ウオスニフスキー**  
グローバル  
マニュファクチャリング&  
サプライ オフィサー



**ジェラード・  
グレコ**  
グローバル クオリティ  
オフィサー



**カミラ・  
ソンドビー**  
チーフペイシェント  
バリュー&プロダクト  
ストラテジー オフィサー



**マルチェロ・  
アゴ스티**  
グローバル  
ビジネスデベロップメント  
オフィサー



**ヘレン・ギザ**  
チーフ グローバル  
インテグレーション &  
ダイベスティチャー  
マネジメント オフィサー

# ベスト・イン・クラスのガバナンスを有する取締役体制

## 社内取締役



NC

クリストフ・ウェバー

代表取締役社長 CEO



岩崎 真人

取締役  
ジャパン ファーマ  
ビジネスユニット プレジデント



アンドリュー・プランプ

取締役  
リサーチ&開発 プレジデント

CC

報酬委員会

NC

指名委員会

独立社外取締役

## 社外取締役



NC

坂根 正弘

独立取締役  
取締役会議長  
指名委員会委員長



ミシェル・オーシンガー

独立取締役



CC

志賀 俊之

独立取締役  
報酬委員会委員長



NC

東 恵美子

独立取締役



CC

藤森 義明

独立取締役



イアン・クラーク

独立取締役



オリビエ・ボユオン

独立取締役



スティーブン・ギリス

独立取締役

## 監査等委員会



CC

山中 康彦

取締役  
監査等委員



NC

国谷 史朗

独立取締役  
監査等委員



初川 浩司

独立取締役  
監査等委員



ジャン=リュック・ブテル

独立取締役  
監査等委員

# Coreと「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「**実質的な成長**」(Underlying Growth)の概念を採用しております。

「**実質的な成長**」は、当期と前年同期(四半期もしくは年間)の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「**実質的な成長**」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「**Underlying Revenue Growth**」(実質的な売上収益の成長)、「**Underlying Core Earnings Growth**」(実質的なCore Earningsの成長)および「**Underlying Core EPS Growth**」(実質的なCore EPSの成長)を重要な財務指標としています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

**実質的な売上収益**は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定常的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

Core Earningsは、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益およびその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない(ノン・コア)とマネジメントが判断した事象による影響を調整します。

**実質的なCore Earnings**は、為替レートを一定として、Core Earningsに、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

**実質的なCore EPS**の算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore Earningsの算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動(時間的価値の変動を含む)影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

# EBITDAと調整後EBITDAの定義

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻繁に用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難にし得る事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠けます。

EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠け得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項、例えば、事業売却の影響等を必ずしも除外しておりません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益（損失）と同視してはならず、また、これらに代わるものととらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

## EBITDA及び調整後EBITDA

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の純利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）、金融収益・費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションのスライド25をご参照ください。

# 当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

(億円)	通期 (3月31日までの12ヶ月)			第3四半期累計 (12月31日までの9ヶ月)	
	2016年	2017年	2018年	2017年	2018年
当期利益	835	1,155	1,867	2,407	1,644
法人所得税費用	371	278	305	472	440
減価償却費及び償却費	1,822	1,714	1,821	1,427	1,163
純支払利息	30	55	68	50	94
<b>EBITDA</b>	<b>3,058</b>	<b>3,202</b>	<b>4,061</b>	<b>4,356</b>	<b>3,341</b>
減損損失	152	514	135	△149	80
その他の営業収益・費用 (減価償却費及び償却費を除く)	170	△783	△611	△1,180	△316
金融収益・費用 (純支払利息を除く)	73	54	△144	△40	227
持分法による投資損益	-	15	322	333	440
その他の調整項目					
連結除外に係る損失	63	-	-	-	-
アリアド社の買収に係る費用	-	32	-	-	-
アリアド社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	-	-	14	11	-
シャイアー社買収に係る費用	-	-	-	-	110
<b>調整後EBITDA</b>	<b>3,516</b>	<b>3,034</b>	<b>3,777</b>	<b>3,332</b>	<b>3,881</b>

# 成長ドライバーの実質的な売上収益

(億円)	2017年度	2018年度	対前年同期	
	第3四半期累計	第3四半期累計		
エンティビオ	1,439	1,944	+505	+35.1%
タケキャブ	375	444	+69	+18.5%
デクスラント	494	530	+37	+7.4%
ALOFISEL	-	0	+0	NA
アミティーザ	253	245	△8	△3.3%
ランソプラゾール	273	196	△77	△28.3%
<b>消化器系疾患*</b>	<b>2,833</b>	<b>3,359</b>	<b>+526</b>	<b>+18.6%</b>
ニンラーロ	328	448	+120	+36.6%
アイクルシグ	163	205	+42	+26.0%
アドセトリス	285	335	+50	+17.7%
ベクティビックス	150	162	+12	+8.2%
リユープロレリン	835	848	+12	+1.5%
ALUNBRIG	14	36	+21	NA
ベルケイド	1,015	951	△64	△6.3%
<b>オンコロジー</b>	<b>2,789</b>	<b>2,984</b>	<b>+194</b>	<b>+7.0%</b>
トリンテリックス	353	422	+69	+19.5%
ロゼレム	127	145	+18	+14.1%
コバキソン	6	7	+1	+10.8%
レミニール	128	130	+1	+1.0%
アジレクト	-	5	+5	NA
<b>ニューロサイエンス</b>	<b>616</b>	<b>709</b>	<b>+94</b>	<b>+15.2%</b>

\* パントプラゾールは消化器系疾患の売上収益に含めていません。パントプラゾールは新興国における主力製品であることから4つ目の成長ドライバーである「新興国事業」の売上収益に含めています。

(注) 2018年度より、個別製品売上のグローバルな管理体系にあわせて、国内の一部製品について、値引・割戻等を個別製品毎に売上から控除して表示しています。比較を容易にするため、2017年度の数値についても組み替えて表示しています。当該組み替えは連結財務諸表に影響を与えるものではなく、また前期数値の修正を意味するものではありません。

# 損益計算書（財務ベース） 2018年度第3四半期累計

(億円)	2017年度	2018年度	対前年同期	
	第3四半期累計	第3四半期累計		
<b>売上収益</b>	<b>13,696</b>	<b>13,800</b>	<b>+104</b>	<b>+ 0.8%</b>
<b>売上総利益</b>	<b>9,845</b>	<b>10,102</b>	<b>+256</b>	<b>+ 2.6%</b>
対売上収益比率	71.9%	73.2%		+1.3pp
販売費及び一般管理費	△4,563	△4,477	+87	△ 1.9%
研究開発費	△2,367	△2,289	+78	△ 3.3%
<b>非定常項目</b>	<b>11</b>	<b>110</b>		
<b>Core Earnings</b>	<b>2,927</b>	<b>3,446</b>	<b>+519</b>	<b>+ 17.7%</b>
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△863	△794	+70	△ 8.1%
その他の営業収益/費用	1,171	302	△869	△ 74.2%
<b>非定常項目（振り戻し）</b>	<b>△11</b>	<b>△110</b>		
<b>営業利益</b>	<b>3,223</b>	<b>2,844</b>	<b>△379</b>	<b>△ 11.7%</b>
対売上収益比率	23.5%	20.6%		△2.9pp
金融収益/費用	△11	△321	△310	NA
持分法による投資損益	△333	△440	△106	+ 31.8%
<b>税引前当期利益</b>	<b>2,879</b>	<b>2,084</b>	<b>△795</b>	<b>△ 27.6%</b>
法人所得税費用	△472	△440	+32	△ 6.7%
非支配持分	2	1	△1	△ 62.9%
<b>当期利益</b>	<b>2,409</b>	<b>1,644</b>	<b>△765</b>	<b>△ 31.7%</b>
<b>EPS</b>	<b>309 円</b>	<b>210 円</b>	<b>△99 円</b>	<b>△ 32.0%</b>

# 損益計算書（財務ベース） 2018年度第3四半期

(億円)	2017年度 第3四半期	2018年度 第3四半期	対前年同期	
<b>売上収益</b>	<b>4,882</b>	<b>4,994</b>	<b>+113</b>	<b>+ 2.3%</b>
<b>売上総利益</b>	<b>3,459</b>	<b>3,609</b>	<b>+150</b>	<b>+ 4.3%</b>
対売上収益比率	70.9%	72.3%		+1.4pp
販売費及び一般管理費	△1,591	△1,539	+52	△ 3.3%
研究開発費	△816	△775	+41	△ 5.0%
<b>非定常項目</b>	<b>4</b>	<b>31</b>		
<b>Core Earnings</b>	<b>1,056</b>	<b>1,326</b>	<b>+270</b>	<b>+ 25.6%</b>
製品に係る無形資産償却費及び減損損失	△295	△311	△16	+ 5.6%
その他の営業収益/費用	122	140	+19	+ 15.3%
<b>非定常項目（振り戻し）</b>	<b>△4</b>	<b>△31</b>		
<b>営業利益</b>	<b>879</b>	<b>1,125</b>	<b>+245</b>	<b>+ 27.9%</b>
対売上収益比率	18.0%	22.5%		+4.5pp
金融収益/費用	8	△169	△177	NA
持分法による投資損益	△338	△480	△141	+ 41.8%
<b>税引前当期利益</b>	<b>549</b>	<b>476</b>	<b>△73</b>	<b>△ 13.3%</b>
法人所得税費用	131	△97	△229	NA
非支配持分	1	△1	△2	NA
<b>当期利益</b>	<b>681</b>	<b>378</b>	<b>△303</b>	<b>△ 44.5%</b>
<b>EPS</b>	<b>87 円</b>	<b>48 円</b>	<b>△39 円</b>	<b>△ 44.8%</b>

# 財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整

(億円)	第3四半期				第3四半期累計			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年度	
<b>売上収益</b>	<b>4,882</b>	<b>4,994</b>	<b>+113</b>	<b>+ 2.3%</b>	<b>13,696</b>	<b>13,800</b>	<b>+104</b>	<b>+ 0.8%</b>
為替影響*	△141	△88	+53	+1.2pp	△287	△146	+141	+1.1pp
<b>為替影響*除き売上収益</b>	<b>4,740</b>	<b>4,906</b>	<b>+165</b>	<b>+ 3.5%</b>	<b>13,408</b>	<b>13,654</b>	<b>+245</b>	<b>+ 1.8%</b>
事業等の売却影響**	△113	-	+113	+2.5pp	△458	△79	+379	+3.0pp
テバJVへの長期収載品	△18	-	+18	+0.4pp	△186	-	+186	+1.5pp
TAK-935	-	-	-	-	△35	-	+35	+0.3pp
マルチラブ社	△9	-	+9	+0.2pp	△33	△11	+22	+0.2pp
テックプール社	△48	-	+48	+1.1pp	△134	△66	+68	+0.5pp
その他	△38	-	+38	+0.8pp	△69	△2	+67	+0.5pp
<b>実質的な売上収益</b>	<b>4,628</b>	<b>4,906</b>	<b>+278</b>	<b>+ 6.0%</b>	<b>12,950</b>	<b>13,575</b>	<b>+624</b>	<b>+ 4.8%</b>

\* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート (1ドル=105円, 1ユーロ=130円)を適用して算出しています。

\*\* 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の売上を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

# 営業利益から実質的なCore Earningsへの調整

(億円)	第3四半期				第3四半期累計			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年度	
<b>営業利益</b>	<b>879</b>	<b>1,125</b>	<b>+245</b>	<b>+ 27.9%</b>	<b>3,223</b>	<b>2,844</b>	<b>△379</b>	<b>△ 11.7%</b>
無形資産の償却費および減損損失	295	311	+16	△1.5pp	863	794	△70	△2.3pp
Shire社買収統合費用（その他の営業費用）	-	110	+110	△10.3pp	-	141	+141	+4.6pp
その他の営業収益/費用	△122	△250	△128	+12.0pp	△1,171	△443	+728	+23.9pp
非正常項目（Shire社買収一般管理費）	-	31	+31	△2.9pp	-	110	+110	+3.6pp
非正常項目（その他）	4	-	△4	+0.4pp	11	-	△11	△0.4pp
<b>Core Earnings</b>	<b>1,056</b>	<b>1,326</b>	<b>+270</b>	<b>+ 25.6%</b>	<b>2,927</b>	<b>3,446</b>	<b>+519</b>	<b>+ 17.7%</b>
為替影響*	△43	△8	+35	+4.5pp	△99	△9	+90	+4.1pp
事業等の売却影響**	△23	-	+23	+3.0pp	△230	1	+231	+10.5pp
テバJVへの長期収載品	△1	-	+1	+0.2pp	△169	-	+169	+7.7pp
TAK-935	-	-	-	-	△35	-	+35	+1.6pp
マルチラブ社	3	-	△3	△0.4pp	7	△1	△8	△0.4pp
テックプール社	△3	-	+3	+0.4pp	△5	5	+10	+0.5pp
その他	△22	-	+22	+2.9pp	△27	△2	+26	+1.2pp
<b>実質的な Core Earnings</b>	<b>990</b>	<b>1,318</b>	<b>+328</b>	<b>+ 33.1%</b>	<b>2,598</b>	<b>3,438</b>	<b>+839</b>	<b>+ 32.3%</b>

\* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

\*\* 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

（注）財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

# 当期利益から実質的なCore当期利益への調整

(億円)	第3四半期				第3四半期累計			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年度	
<b>当期利益</b>	<b>681</b>	<b>378</b>	<b>△303</b>	<b>△ 44.5%</b>	<b>2,409</b>	<b>1,644</b>	<b>△765</b>	<b>△ 31.7%</b>
<b>EPS</b>	<b>87 円</b>	<b>48 円</b>	<b>△39 円</b>	<b>△ 44.8%</b>	<b>309 円</b>	<b>210 円</b>	<b>△99 円</b>	<b>△ 32.0%</b>
無形資産の償却費および減損損失	212	239	+27	+3.8pp	613	606	△8	△0.3pp
Shire社買収統合費用（その他の営業費用）	-	85	+85	+12.0pp	-	110	+110	+4.7pp
その他の営業収益/費用	△86	△172	△86	△12.2pp	△786	△345	+441	+19.1pp
Shire社買収一般管理費	-	31	+31	+4.3pp	-	110	+110	+4.7pp
Shire社買収金融費用	-	65	+65	+9.1pp	-	126	+126	+5.4pp
その他の非正常項目の調整	△47	352	+400	+56.1pp	△62	378	+440	+19.0pp
<b>Core当期利益</b>	<b>760</b>	<b>977</b>	<b>+218</b>	<b>+ 28.6%</b>	<b>2,175</b>	<b>2,629</b>	<b>+454</b>	<b>+ 20.9%</b>
為替影響*	△20	15	+35	+5.7pp	△34	30	+63	+3.7pp
事業等の売却影響**	△11	4	+15	+2.4pp	△152	10	+162	+9.5pp
<b>実質的なCore当期利益</b>	<b>728</b>	<b>996</b>	<b>+268</b>	<b>+ 36.8%</b>	<b>1,989</b>	<b>2,669</b>	<b>+679</b>	<b>+ 34.2%</b>
<b>実質的なCore EPS</b>	<b>93 円</b>	<b>127 円</b>	<b>+34 円</b>	<b>+ 36.8%</b>	<b>255 円</b>	<b>342 円</b>	<b>+ 87 円</b>	<b>+ 34.2%</b>

\* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レート（1ドル=105円，1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

\*\* 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

（注）財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

# 損益計算書（実質ベース） 2018年度第3四半期累計

(億円)	2017年度	2018年度	対前年同期	
	第3四半期累計	第3四半期累計		
実質的な売上収益	12,950	13,575	+624	+ 4.8%
実質的な売上総利益	9,258	9,919	+661	+ 7.1%
対売上収益比率	71.5%	73.1%		+1.6pp
販売費及び一般管理費	△4,389	△4,276	+114	△ 2.6%
研究開発費	△2,270	△2,206	+65	△ 2.8%
<b>実質的なCore Earnings</b>	<b>2,598</b>	<b>3,438</b>	<b>+839</b>	<b>+ 32.3%</b>
対売上収益比率	20.1%	25.3%		+5.3pp
金融収益/費用	△59	△88	△29	+ 49.0%
持分法による投資損益	57	82	+25	+ 44.0%
<b>実質的なCore税引前当期利益</b>	<b>2,596</b>	<b>3,432</b>	<b>+836</b>	<b>+ 32.2%</b>
法人所得税費用	△603	△760	△157	+ 26.1%
非支配持分	△4	△3	+1	△ 26.7%
<b>実質的なCore当期利益</b>	<b>1,989</b>	<b>2,669</b>	<b>+679</b>	<b>+ 34.2%</b>
<b>実質的なCore EPS</b>	<b>255 円</b>	<b>342 円</b>	<b>+87 円</b>	<b>+ 34.2%</b>

# 損益計算書（実質ベース） 2018年度第3四半期

(億円)	2017年度 第3四半期	2018年度 第3四半期	対前年同期	
実質的な売上収益	4,628	4,906	+278	+ 6.0%
実質的な売上総利益	3,285	3,538	+253	+ 7.7%
対売上収益比率	71.0%	72.1%		+1.1pp
販売費及び一般管理費	△1,517	△1,483	+34	△ 2.2%
研究開発費	△778	△736	+42	△ 5.4%
<b>実質的なCore Earnings</b>	<b>990</b>	<b>1,318</b>	<b>+328</b>	<b>+ 33.1%</b>
対売上収益比率	21.4%	26.9%		+5.5pp
金融収益/費用	△25	△60	△35	NA
持分法による投資損益	30	24	△6	△ 21.3%
<b>実質的なCore税引前当期利益</b>	<b>995</b>	<b>1,281</b>	<b>+286</b>	<b>+ 28.7%</b>
法人所得税費用	△265	△284	△19	+ 7.1%
非支配持分	△2	△1	+1	△ 36.2%
<b>実質的なCore当期利益</b>	<b>728</b>	<b>996</b>	<b>+268</b>	<b>+ 36.8%</b>
<b>実質的なCore EPS</b>	<b>93 円</b>	<b>127 円</b>	<b>+34 円</b>	<b>+ 36.8%</b>

# 純有利子負債/EBITDA倍率は1.6倍に低下、 ノン・コア資産の売却により729億円のキャッシュを創出

(億円)	2017年度	2018年度	対前年同期	
	第3四半期累計	第3四半期累計		
営業フリー・キャッシュ・フロー	1,521	1,214	△307	△20.2%
和光純薬株式会社売却	845	-	} 729	
マルチラブ社及びびテックプール社株式会社売却	-	275		
その他投資有価証券売却 <sup>1</sup>	215	393		
不動産の売却 <sup>1</sup>	369	61		
配当金	△ 1,354	△ 1,358		
ブリッジ・タームローン借入枠等 - Shire社買収	-	△ 195		
社債利息 - Shire社買収	-	-		
その他	△ 388	△ 358		
現金の増減額 (△は減少)	1,208	34	△1,174	△97.2%

	2017年度	2018年度	対前年度末	
	第4四半期末	第3四半期末		
現金および現金同等物 <sup>2</sup>	2,945	2,979	△3,399	△53.3%
有利子負債 <sup>3</sup>	△ 9,857	△ 25,488	△15,631	NA
純有利子負債	△ 6,911	△ 22,509	△15,598	NA
有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.6 x	5.9 x	+3.3	
純有利子負債/調整後EBITDA倍率 (エスクロー口座の現金含む)	1.8 x	(注) 1.6 x	△0.2	
調整後EBITDA <sup>4</sup>	3,777	4,326	841	+14.5%

<sup>1</sup> 2018年度売却目標: 合計約1,100億円 <sup>2</sup> 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含む <sup>3</sup> 流動・非流動の社債及び借入金 <sup>4</sup> 詳細はスライド24-25をご参照ください。

(注) 2018年度第3四半期末(2018年12月31日)の負債はShire社買収の資金調達にかかる新規社債(75億ユーロおよび55億米ドル)を含む一方、当該社債発行に伴う現金(1兆5,539億円)はエスクロー口座に入金され、現金および現金同等物に含まれていない。1.6倍は、純有利子負債の計算においてエスクロー口座の現金を含めた上での純有利子負債/調整後EBITDA倍率。

# 2018年度第3四半期累計 テバ社合弁会社にかかる損益影響

(億円)	2017年度 第3四半期累計	2018年度 第3四半期累計	対前年同期
<b>売上収益</b>	<b>153</b>	<b>9</b>	<b>△144</b>
長期収載品7製品の売却*	145	—	△145
長期収載品7製品にかかる繰延収益*	8	9	+1
<b>Core Earnings</b>	<b>153</b>	<b>9</b>	<b>△144</b>
<b>その他の営業収益</b>	<b>263</b>	<b>297</b>	<b>+33</b>
長期収載品の繰延事業譲渡益の実現額（償却費部分）**	46	34	△12
長期収載品の繰延事業譲渡益の実現額（減損損失部分）***	217	263	+46
<b>営業利益</b>	<b>417</b>	<b>306</b>	<b>△111</b>
<b>持分法による投資損益</b>	<b>△335</b>	<b>△429</b>	<b>△94</b>
長期収載品にかかる無形資産償却費	△34	△27	+7
長期収載品事業とジェネリック事業の減損損失	△357	△494	△137
通常の事業活動	56	92	+36
<b>税引前当期利益</b>	<b>81</b>	<b>△124</b>	<b>△205</b>

\* 長期収載品7製品の売却額285億円のうち、51%（145億円）は2017年5月に売上収益認識、残りの49%は12年にわたり繰延認識。

\*\* 2016年4月に長期収載品事業の事業譲渡益の51%（1,029億円）をその他の営業収益に計上、残りの49%は15年にわたり繰延認識。

\*\*\* テバ社との合弁会社において長期収載品事業にかかる減損損失を計上したことに伴い、事業譲渡益を加速的に認識。

# 略語用語集

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	EE H	erosive esophagitis healing (びらん性食道炎の治療)	LCM	lifecycle management (ライフ・サイクル・マネジメント)	RCC	renal cell cancer (腎細胞がん)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	EE M	erosive esophagitis maintenance (びらん性食道炎の再発予防)	mAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	EFI	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	SALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	MLD	metachromatic leukodystrophy (異染性白質ジストロフィー)	SBS	short bowel syndrome (短腸症候群)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	EOE	eosinophilic esophagitis (好酸球性食道炎)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	SC	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
AML	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)	ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	NASH	non-alcoholic steatohepatitis (非アルコール性脂肪性肝炎)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
AMR	antibody mediated rejection (抗体関連型拒絶反応)	FL	front line (フロントライン適応)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
ASCT	autologous stem cell transplant (自家幹細胞移植)	FLT-3	FMS-like tyrosine kinase 3 (FMS様チロシンキナーゼ3)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	FSI	first subject in (最初の患者登録)	Neg	negative (陰性)	sq	squamous (扁平上皮)
BTK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	GCC	guanylyl cyclase C (グアニル酸シクラーゼC)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	SR	steroid refractory (ステロイド抵抗性)
BBB	blood brain barrier (血液脳関門)	GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NF	new formulation (新規剤型)	SR-GvHD	steroid refractory acute graft vs host disease (ステロイド抵抗性急性移植対宿主病)
BOS	budesonide oral solution (ブデソニド経口懸濁液)	GI	gastrointestinal (胃腸)	NK	natural killer (ナチュラルキラー)	STING	stimulator of interferon genes (インターフェロン遺伝子刺激因子)
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T (次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞)	GnRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NME	new molecular entity (新規候補物質)	SUMO	small ubiquitin-related modifier (低分子ユビキチン様修飾因子)
CD	Crohn's disease (クローン病)	GU	gastric ulcer (胃潰瘍)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺がん)	SYK	spleen tyrosine kinase (脾臓チロシンキナーゼ)
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors (インヒビター保有先天性血友病A)	GvHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NSCT	non stem cell transplant (非幹細胞移植)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	HAE	hereditary angioedema (遺伝性血管浮腫)	NS	negative symptoms (陰性症状)		
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	H2H	head to head (直接比較)	OIC	opioid induced constipation (オピオイド誘発性便秘症)		
CIC	chronic idiopathic constipation (慢性特発性便秘)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	ORR	overall response rate (全奏効率)		
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)	HemA	hemophilia A (血友病A)	PARP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)		
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	PBS	phosphate buffered saline (リン酸緩衝生理食塩水)		
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	PCAB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロッカー)		
CSF	cerebral spine fluid (脳脊髄液)	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	PFIC	progressive familial intrahepatic cholestasis (進行性家族性肝内胆汁鬱滯)		
CNS	central nervous system (中枢神経系)	IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)		
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	IBS-C	irritable bowel syndrome with constipation (過敏性腸症候群便秘型)	P1D	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)		
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	IND	investigational new drug (治験薬)	PPI	proton pump inhibitor (プロトンポンプ阻害薬)		
CTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性の血栓性血小板減少性紫斑病)	I/O	immuno-oncology (がん免疫治療)	PK	pharmacokinetics (薬物動態)		
DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	IV	intravenous (静脈投与)	POC	proof of concept (概念実証)		
DED	dry eye disease (ドライアイ)	iPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)		
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	LBD	Lewy Body Dementia (レビー小体病)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)		
DM	diabetes mellitus (糖尿病)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低プラスト急性骨髄性白血病)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)		
DU	duodenal ulcer (十二指腸潰瘍)	LSD1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	RA	rheumatoid arthritis (リウマチ性関節炎)		
Dx	diagnosis (診断)						



**Takeda Pharmaceutical Company Limited**